



市民ネットワーク まちづくり通信

山田京子の NO. 67 議会報告

千葉市議会 第4回定例会報告

平成22年11月29日
～12月16日

発行：市民ネットワーク
編集：市民ネットワークわかば

土地開発公社解散

債権放棄は約100億円 市民と議会に納得のいく説明を

市土地開発公社は公共事業用地を、市に代わり先行取得してきましたが、市が買い戻せていない、いわゆる『塩漬け土地』が19か所あり、簿価(用地費、利息など)は132億円(うち利息は41億円)にも上ります。

そこで、市は第3セクター改革推進債125億円を起債し、公社解散を提案してきました。このまま、公社が借金をもちつづけるよりも、市債を発行し精算する方が、将来的に財政負担が少なく済むという計算からです。

次の議会では約100億円の債権放棄の審議が予定されており、それは結果的に市民の負担になります。

早期解決のため議案に賛成しましたが、次の議会までに、なぜ莫大な債権放棄額になったのか、今後の事業化はどう考えるのかなど、市民と議会への納得のいく説明を求めました。

一歩進んだ議会改革 傍聴者にもわかりやすい議会に

超党派で検討していた、一問一答方式が12月から始まりました。これまでは、まとめて質問し、まとめて答弁するという、聞く人にとってわかりにくい方式が続いていました。

質問を深めていく一問一答の長所を活かすには、まだまだ修行が足りませんが、少しずつ慣れて皆様によりわかりやすい質問作りを目指していこうと思います。

議会傍聴記



初登場！
議場にプロジェクター

先日の定例市議会から、新しく一問一答方式が導入されました。議員も市当局も事前に調整した台本を読みあっている印象ですが、市側の答弁がまだまだおざなりであることが浮き彫りになったように思います。

また、今回からプロジェクターも導入され、席によって見づらい等問題はありますが、これら二つの試みは、活発な討議で緊張感のある議会実現に有効な手段ですので、是非継続して改善の努力をしてもらいたいものと思いました。(久保)

千城台地区の 学校統廃合

千城台地区学校適正配置地元代表協議会は、昨年11月26日に第5回目が開かれ、小学校の適正配置(統廃合)から協議することが決まりました。

提案は議長から出され、反対意見は出ないうまま了承された形となりましたが、委員の様子を見ると、積極的賛成という雰囲気ではなかったように思います。16回を迎えても協議が続いている地区もあるとの事。慎重な審議が不可欠だと思います。

この協議会の議事要旨は、千葉市教育委員会のホームページ、及び、各学校事務室でみる事ができます。

次回2月4日18時半より、千城台公民館で開催が予定されています。傍聴もできるのので、多くの皆さんに関心を寄せていただきたいと思います。

性的少数者への理解と 支援をすすめよう

一般質問より

議員個人が関心を持つテーマについて行う質問

昨年、新聞の特集で、心と体の性別が反対の人や、どちらとも決められない性別を持つ人がこの世の中にはいて、その悩みを親にさえ打ち明けられずに、苦しんだり、自殺したりしていることを知りました。

こんな問題こそ、議員が、おもてに出ない声をキャッチして、行政に問いかけるべきではないかと考えるようになりました。

そこで、性同一性障害の方や、性別にとらわれない生き方をしている方と会い、他市の先進例を聞きに行くなどして、千葉市の性的少数者への取り組みを質問しました。

担当部局を決め、相談・研修体制をつくらせてほしいということが質問の主旨ですが、この問題を、一般質問で正面からぶつけたのが初めてだったので、すぐには明確な回答は得られませんでした。しかし、問題の認識は市にもあることがわかりましたので、対策がどこまで進んだのか今後確認していきたいと思います。市内で苦しんでいる当事者が、声を上げるきっかけになることも願っています。

防災対策は 組織と人材の育成がカギ



災害時にまず大切なのは、地域の市民同志の助け合いです。しかし、市民ネットワークわかばから区内の自治会にお願いしたアンケートでは、自主防災組織の活動と言え、ば年1回の防災訓練が精いっぱいのところが多いことが見えてきました。

また、区で2か所のモデル事業として始まっている災害時要援護者支えあいカードによる、災害時要援護者対策も、予測通りには進んでいないようです。モデル事業にこだわらず、どんどん先進事例を紹介しあい、それぞれの組織に見合った方法を考える必要があると思います。

もどかしいほど、なかなか進まない市の防災対策。市が直接啓発、指導するには手も、時間も足りません。防災組織を指導できるような、市民団体の育成にもっと力を入れるべきと訴えました。